

病理学の理念、使命、社会貢献

～ 純度の高い専門性と社会的包容力 ～

2024年3月28日 第113回日本病理学会総会(3月28日～3月30日)(大会長：豊國伸哉 名古屋大学大学院医学系研究科 生体反応病理学 教授)(名古屋国際会議場に於いて)に赴いた(画像)。テーマは『医学を支える情熱的病理学 ～ 原点を見つめ、レジリエントなサイエンスを目指して ～』であった。

想えば、筆者は1995年日本病理学会学術研究賞、2002年日本病理学賞を受賞し、そして日本病理学会理事を歴任し、第99回(2010年)日本病理学会総会会長を仰せつかったものである。筆者にとっては『病理学は人生の原点』である。

1979年医師になり、癌研究会癌研究所の病理部に入った。そこで、大きな出会いに遭遇したのであった。病理学者であり、当時の癌研究所所長であった菅野晴夫先生(1925-2016)の恩師である日本国の誇る病理学者：吉田富三(1903-1973)との出会いに繋がった。菅野晴夫先生の下で、2003年『吉田富三生誕100周年記念事業』を行う機会が与えられ、日本病理学会でもシンポジウムを企画した。筆者が会長を務めた第99回日本病理学会総会(2010年)において、菅野晴夫先生に特別企画『病理の百年を振り返って』をして頂いた。

米国インシュタイン医科大学肝臓研究センターに留学(1984～1985)、そして、菅野晴夫先生に、フィラデルフィアのフォクスチェース癌センタ(Fox Chase Cancer Center)のKnudson博士(1922-2016)の下で『Scienceを学んでくるように』と留学(1989～1991)の機会が与えられた。1991年には、癌研実験病理部部長として、帰国するようにと指示を頂いた。

病理学の理念：「世界の動向を見極めつつ歴史を通して今を見ていく」

病理学の使命：『俯瞰的に「人間」を理解し「理念を持って現実に向かい、現実の中に理念」を問う人材の育成』

病理学の社会貢献：『複眼の思考を持ち、視野狭窄にならず、教養を深め、時代を読む「具眼の士」の種蒔き』

『病理学＝純度の高い専門性(生物学)と社会的包容力(人間学)』である。



プログラム

医学を支える情熱的病理学

原点を見つめ、レジリエントなサイエンスを目指して

Passionate Pathology supporting Medicine
From the Origin toward Resilient Science



2024.3.28 Thu.-30 Sat. 名古屋国際会議場

会長 豊國 伸哉 名古屋大学大学院医学系研究科 生体反応病理学 教授

副会長 榎本 篤 名古屋大学大学院医学系研究科 腫瘍病理学・分子病理学 教授

加留部 謙之輔 名古屋大学大学院医学系研究科 臓器病態診断学 教授

<https://www.congre.co.jp/113jsp>